

分野	荒廃山地の復旧等の治山			事業番号	4	事業名	山地治山(復旧治山)			
市町村名	飯田市	ふりがな 箇所名	ひらはた 平畑			事業年度 (完了年度は見込み)	H25 年度～		H28 年度	
事業概要	区分	事業内容			事業費(千円)		財源内訳(千円)			
	全体	溪間工(谷止工1個) 山腹工0.90ha(土留工4個、伏工9,500㎡ 他)			300,000		150,000		135,000	15,000
		H25年度	溪間工 谷止工1個			42,500		21,250		19,125
箇所評価	区分	評価項目・指標等			評価			ランク	評点	
	(20)	必要性	保全対象人家	■ 10戸以上	□ 1～9戸	□ 0戸	A	5		
			保全対象公共施設	□ 2箇所以上	■ 1箇所	□ なし			3	
		保全対象に災害時要援護者関連施設があるか	□ 重要施設	□ 一般施設	■ なし	0				
		保全対象(保安林・林業用施設)	■ 「広域基幹林道」又は利用区域500ha以上の林道又は保安林率50%以上	□ 保安林率30%以上50未満又は流域対策上保全すべき森林あり	□ 保安林率30%未満	7				
		小計								15
	(15)	重要性	過去の災害履歴	■ 過去5年に1回以上	□ 災害履歴地	□ なし	A	5		
			交通遮断による地域経済などへの影響	■ 大	□ 中	□ 小			5	
			防災計画上の位置づけ	■ あり	□ なし				5	
	小計						15			
	(20)	効率性	費用対効果(B/C)	□ B/C2.0以上	■ B/C1.0以上2.0未満	□ B/C1.0未満	B	7		
			早期発現度	□ 3年未満	■ 3年以上5年未満	□ 5年以上			5	
			流域の総合調整	□ あり	■ なし				0	
			小計							
	(25)	緊急性	最寄の保全対象までの距離	□ 50m未満	■ 50m以上200m未満	□ 200m以上	A	4		
地形、地質の状況			■ 火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯かつ地すべり地形	□ 火山噴出物、花崗岩、第3紀層、破砕帯	□ その他	3				
平均溪床勾配(平均山腹勾配)			■ 10°以上(30°以上)	□ 5°～10°未満(20°～30°未満)	□ 5°未満(20°未満)	3				
下流の堰堤等の整備状況(他所管含む)			□ なし	■ あり(概ね満砂)	□ あり(ポケットあり)	3				
危険地区危険度			■ Aランク	□ Bランク	□ Cランク □ なし	7				
小計										20
(20)	計画	地域からの要望	□ 地域住民活動強い	■ 市町村要望有り	□ 特に要望ない	B	7			
		事業情報の共有	□ 関係者以外にも周知	■ 関係者中心に周知	□ 特に周知していない			3		
		住民参加の状況	□ 住民が直接参加	■ 住民市町村意見を反映	□ 住民意見反映していない			3		
		小計								13
費用対効果(B/C)		1.17			評価の合計			A	75	
事業周辺環境	事業実施に至る歴史的経緯・社会的背景	平成18年7月の梅雨前線豪雨により山腹崩壊が発生した。崩壊土砂は、山腹工下部に堆積したが、下流には流出はなかった。しかし、平成22年7月梅雨前線豪雨により山腹上部の拡大崩壊に伴い、山腹下部にある茶畑に土砂が流出し大部分が被災する被害が発生させた。また、土砂の流出は国道152号の法留擁壁まで流出した。								
	地域からの要望経緯	国道152号は地域の重要な生活道路であり、地元住民から安全な通行の確保を強く望まれている。								
	事業説明等の経緯	地権者に対しH24年9月に全体計画の説明を行い、地元地区に対して飯田市を通じて計画を周知している。								
	環境・景観への配慮項目	特になし。								
	他事業・プロジェクトとの関連	特になし。								
	特記事項	今回の計画は、山腹斜面の地形・地質が原因であり、直接崩壊対策を行うのではなく、崩落した土砂が下流域に流出しない対策を基本に実施したい。								
地域の合意形成	□ 全員賛成		■ 概ね賛成		□ 過半数賛成		□ 動向不明			
部意見	平成22年7月に拡大崩壊した山腹崩壊地があり、未だ不安定な状態となっている。下方には人家及び国道があることから、早急に対策を図る必要がある。				行政改革課意見	重要性が高く、必要性、緊急性も認められる。				